

都市再生整備計画(第一回変更)

しまんとちく なかむらぐどう
四万十地区(中村・具同)

こうちけん しまんとし
高知県 四万十市

令和3年5月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	高知県	市町村名	しまんと市	地区名	しまんと ちく なかむら ぐどう 四万十地区(中村・具同)	面積	88.8 ha
計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 6 年度				

目標

- 大目標『住みたい都市づくり、中心都市しまんと』
 目標1: 都市機能の誘導による賑わいと活力の創出
 目標2: 誰もが安全・安心かつ快適に暮らせる住環境の創出
 目標3: 地域特性を活かし潤いと賑わいの空間の創出

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)

四万十市は、四万十川に代表される豊かな自然を有し、これまで四国西南に位置する幡多地域の中心都市として、その時代に応じた都市施設整備や市街地開発事業等を展開することにより発展してきた。一方、近年では人口減少が進み、多くの若者が市外に流出し、子育て世代の減少など、少子高齢化の傾向がさらに強まることが見込まれている。

こうした中、本市においては、持続可能な都市構造の構築に向けて「立地適正化計画」を策定し、交通拠点や都市機能の集積する中心部を拠点とした多極ネットワーク型コンパクトシティの構築を図るため、総合計画や都市計画マスタープラン等の上位・関連計画との整合を図りながら進めている。

本市の中心的な役割を担う中村・具同の市街地は、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画における中心拠点(中村)、生活拠点(具同)に位置けられている。中村・具同の市街地では、古くから市街化かが進んでおり、特に中村の市街地では、古くから「土佐の小京都」として栄え、多くの商業・業務施設などの都市機能が集積している。また、具同では、土地区画整理事業により都市基盤が形成され、一定まとまった居住を有する地域である。しかしながら、近年、中村・具同の市街地は、本市でも特に少子高齢化が進行し、空き家・空き店舗・未利用地が増加するなど市街地の空洞化が進行している。また、中心市街地の再興や公共施設の老朽化など多くの課題を抱えるなか、持続可能な都市運営を可能とするまちづくりが求められている。

このため、四国横断自動車道の延伸を契機に、持続可能なまちづくりに向け、機能集約による公共施設の再編や、子育て・教育環境の充実、高齢者にも優しい歩行者空間の確保、地域資源を活かした賑わいづくりに向けた環境整備などを展開し、「集約型都市構造」への転換を図っていく。

公的不動産の活用方策としては、機能が分散し老朽化している既存施設を集約して再整備することにより、子どもから高齢者に至るまでの幅広い世代間の交流拠点となる地域交流センター(文化複合施設)や保育所により、中心市街地の賑わいの再生や拠点機能の集約を行うほか、既存ストックと新たな施設との連携強化を進め、都市機能の拡散防止と公的不動産の有効活用を図る。

中村・具同の市街地は、特に少子高齢化が進行し、空き家・空き店舗・未利用地が増加するとともに、公共施設や道路・公園等の都市基盤施設の維持・更新のための社会負担の増加が懸念されている。また、高齢化による自動車利用困難者の増加などにより、公共交通利用へのニーズが高まることが予想されている。

本市の都市構造の現況評価では、比較的コンパクトに形成されている市街地において、買い物や移動に対する利便性ととともに、健康・福祉施設に対する利便性は有利な状況にあるが、中心市街地の人口減少や高齢化の進行、空家・空地の増加による都市のスポンジ化に対する生活サービス機能の低下が懸念され、都市及び生活サービス機能の再編や集約が必要となっている。

課題

- ・人口減少や高齢化への対応
- ・まちなかの活性化・賑わいへの対応
- ・空家、空地の増加への対応
- ・交通弱者の増加への対応
- ・若者世代、子育て世代の流出への対応

将来ビジョン(中長期)

【都市計画区域マスタープラン(中村都市計画区域)H30.3】

・都市機能の適正な配置の方針として、圏域拠点にふさわしい都市機能(商業・産業)の充実や、計画的な市街地の整備の方針として、文化センターや公民館の改築(新築)や再配置による中心市街地の再生が謳われている。

【四万十市都市計画マスタープラン(2017.3)】

・将来都市構造として、「集約型+ネットワーク」都市構造を示しており、中村地区が中心拠点、具同地区が生活拠点として位置づけられている。

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

中村・具同市街地を含む区域を都市機能誘導区域に設定し、各種都市機能の誘導や集約を図り、各種サービスの効率的な提供と様々な交通を通じて、市の中核としての賑わいと活性化を維持、充実させ、魅力的なまちづくりを牽引する。具体的には、主に以下の整備を進めていく。

- ・コンパクトでより効率的な管理運営を行うとともに老朽化した公共施設の機能集約、再配置をするため、中村の中心市街地に地域交流センター（文化複合施設）を整備し、子どもから高齢者に至るまでの幅広い世代間の交流拠点と賑わいの創出を図る。
- ・少子高齢化対策として、保育所の統合・整備（中村・具同）を行い、子育て世帯が安心して暮らせる生活環境づくりを進める。
- ・市民の誰もができるだけ自家用車を使わずに歩いて都市機能にアクセス可能な歩行空間を創出する。
- ・公共施設や主要観光地などの目的地へ、安全で円滑に誘導案内するために必要と思われる情報案内版や、観光地としての雰囲気損なわないよう景観面に配慮した舗装整備などを進める。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

- ・本市で生み育て住み続けるための子育て支援の施設として、中村地区、具同地区のそれぞれに子育て支援施設である保育所を整備する。
- ・子育て支援の充実により移住、定住を促進し、「住みたい都市づくり、中心都市しまんと」を目指す。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

- 【道路】市道五月2号線道路整備事業、市道五月4号線道路整備事業、市道五月馬渡線道路整備事業、市道大正五月線道路整備事業、市道大橋通1号線道路整備事業
- 【公園】五月公園リニューアル整備事業、具同1号公園リニューアル整備事業
- 【地域生活基盤施設】観光情報案内板
- 【高質空間形成施設】緑化施設等（道路修景施設整備）
- 【高次都市施設（地域交流センター）】四万十市文化複合施設（仮称）整備事業
- 【誘導施設】具同保育所整備事業（仮称）
- 【関連事業：中心拠点誘導施設（教育文化施設：認定こども園）】中村保育所（仮称）整備事業（民設・民営）

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
中心市街地の公益施設利用者数	人/年	現状の文化センター及び中央公民館の年間利用者数と新たに整備される文化複合施設の年間利用者数を調査し比較する。	中心市街地の賑わいの再生	109,795人/年	H30年	130,000人/年	R6
保育所入所待機児童数（0歳児）	人	四万十市における待機児童数を調査する。	誰もが安全・安心かつ快適に暮らせる住環境の維持増進	17人	H30年	0人	R6
移住者用住宅新規登録件数	件/年	空き家を活用した、移住者用住宅の新規登録件数を調査し比較する。	住みたい都市づくりのための中心市街地地区の賑わいと活力の創出	30件/年	H30年	35件/年	R6

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>目標1:都市機能の誘導による賑わいと活力の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの強化や交流促進といった、磨く、つなぐ、支えあうことにより、多世代交流を生み出す場として「地域交流センター」を整備する。 ・交流の場を補完する道路・公園・情報板設置等の整備を行う。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路:市道五月2号線道路整備事業 ・道路:市道五月4号線道路整備事業 ・道路:市道五月馬渡線道路整備事業 ・道路:市道大正五月線道路整備事業 ・道路:市道大橋通1号線道路整備事業 ・公園:五月公園リニューアル整備事業 ・公園:具向1号公園リニューアル整備事業 ・地域生活基盤施設:観光情報案内板 ・高次都市施設(地域交流センター):四万十市文化複合施設(仮称)整備事業
<p>目標2:誰もが安全・安心かつ快適に暮らせる住環境の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う子どもを安心して産み、育てることができる環境を整えるため、機能集約による保育所整備を行う。 ・安心安全で快適に暮らせる住環境の創出を目指し、ひとにやさしい道路の整備を行う。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘導施設:具同保育所整備事業(仮称) ・高質空間形成施設:緑化施設等(道路修景施設整備) <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業:四万十市自転車活用推進事業 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心拠点誘導施設(教育文化施設_認定こども園):中村保育所(仮称)整備事業(民設・民営)
<p>目標3:地域特性を活かし潤いと賑わいの空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの道路の高質空間形成に合わせて潤いと賑わいの空間を創出し、官民協働による景観形成への取組みを進め、中心市街地の活力向上に努める。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高質空間形成施設:緑化施設等(道路修景施設整備) <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり活動推進事業:文化複合施設啓発事業
<p>その他</p> <p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市文化複合施設(仮称)の建設にあたり、基本計画策定時に市民ワークショップは基本計画 策定の段階で開催し、日頃の利用に基づく積極的な質問・意見が出された。特に既存施設の建物や設備の老朽化、バリアフリーになっていないなど指摘や、今後の集約・整備に向けての改善点、期待する声などが多く聞かれた。 	

四万十地区(中村・具同)(高知県四万十市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標『住みたい都市づくり、中心都市しゅんと』	中心市街地の公益施設利用者数 (人/年)	109,795人/年 (H30年) → 130,000人/年 (R6年度)
	目標1: 都市機能の誘導による賑わいと活力の創出	保育所入所待機児童数 (人)	17人 (H30年) → 0人 (R6年度)
	目標2: 誰もが安全・安心かつ快適に暮らせる住環境の創出	移住者用住宅新規登録件数 (件/年)	30件/年 (H30年) → 35件/年 (R6年度)
	目標3: 地域特性を活かし潤いと賑わいの空間の創出		
	代表的な指標		

